

技術と社会部門 2011 年度部門賞報告

2011年度部門賞および部門一般表彰報告

技術と社会部門では、部門に関連する研究と活動の進展を促進するために、部門賞および部門一般表彰を設けています。2011年度の部門賞および部門一般表彰につきましては、会員の皆様からの推薦をもとに、第89期表彰委員会〔委員長：黒田孝春（木更津高専）〕で審議・選考され、2012年4月の部門運営委員会において決定されました。受賞者、表彰者は以下の方々です。

なお、部門功績賞の贈賞・表彰式はICBTT2012（Newcastle University Business School, Newcastle, UK, 平成24年12月7日（金））のBanquetにて、優秀講演論文表彰の贈賞・表彰式は日本機械学会2012年度年次大会（金沢大学、平成24年9月10日（月））の懇親会の席上にて、それぞれ行われました。

（報告 黒田孝春（長野高専））

部門賞

部門功績賞（Technology and Society Award） Prof. John F. Wilson (University of Liverpool, UK)

[贈賞理由]

技術と社会部門の重要な行事の一つとして国際会議 ICBTT (International Conference on Business and Technology Transfer) がある。ここに推薦する J. F. Wilson 氏は、2002年に京都で開催された第1回より英国パートナーとして企画・実施に携わり、2004年の英国プレストンでの第2回開催では英国側の実行委員長を務め、その後、2年毎に定期開催される ICBTT においても実行委員および基調講演などを務めた。2012年の ICBTT2012 の継続開催、およびネイティブスピーカー側のキーパーソンとしての国際交流に多大な貢献を果たしている。以上、部門への功績は誠に顕著であり、技術と社会部門の功績賞に値する。

部門賞

部門功績賞 堤 一郎(産業技術歴史文化研究所)

[贈賞理由]

技術と社会部門の部門長を務めた後、機械遺産の認定事業を開始することに尽力され、技術と社会部門に「機械遺産委員会」を立ち上げることに大きな貢献を果たされた。現在、機械遺産認定事業は日本機械学会の最も重要な事業の一つになっており、「機械遺産委員会」は部門の活性化に大きな役割を果たしている。また、機械遺産の認定に関する記録は、部門講演会や部門主催の国際会議(ICBTT2008)で発表されており、

堤氏は長年、筆頭著者として論文をまとめてこられた。さらに、長年に亘り経営と技術移転に関する国際会議(ICBTT)の開催・運営にも貢献されてこられた。これらの功績は部門の発展に大きく寄与しており、功績賞に相応しい。

部門一般表彰

優秀講演論文表彰

対象論文：「System Design Approach derives a New type of Insurance」

中島 円, 八木田 寛之, 佐々木 正一(慶應義塾大学大学院)

[贈賞理由]

本論文は本部門の国際会議ICBTT2010において発表され、その内容は製品設計に広く用いられているシステム設計の手法をサービス設計に適用したものである。研究の対象は、社会安全や保安に関する問題提起と問題解決の提案である。具体例として、日本の深刻な社会現象である「ひきこもり」を取上げ、「KJ method」と「Pugh Selection」を用い問題設定を明らかにしている。さらに、「Scenario Graph」を用いることによって、その解決策としての導かれた「ひきこもり保険」の提案とその保険によるメンタルケアや回復プログラムの費用負担支援などの提案と検証を行っている。以上、本論文はシステム設計手法の新たな適用例であり、理論的解析による問題提起から問題解決の提案、さらにその検証による有効性を示すなど、技術と社会部門の優秀講演論文に値する。

部門一般表彰

優秀講演論文表彰

対象論文：「九州支部と連携した技術と社会部門の小規模工学教育事業(第3回新☆エネルギーコンテストの実施)」

吉田 敬介(九州大学), 大久保英敏(玉川大学), 池森 寛(西日本工業大学), 森 英夫(九州大学),

河野正道(九州大学), 仮屋圭史(九州大学)

[贈賞理由]

本論文は日本機械学会九州支部第64期総会・講演会にて発表され、論文内容は優れた教育活動のみならず部門活性化への取り組みや九州地区における部門の活動が見事にまとめられており、部門活性化活動を知るための資料としても価値がある。また、エネルギーコンテストに連携した九州支部は、主に熱工学部門の会員が協力し、コンテストに参加した会員からも高い評価を得た。これらの部門への貢献度および論文内容により表彰に値する。



日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.28

(C)著作権:2013 社団法人 日本機械学会 技術と社会部門